

ユーザーズ・マニュアル

DELAY TAPE-201

ARTURIA®
YOUR EXPERIENCE • YOUR SOUND

スペシャル・サンクス

ディレクション

Frédéric BRUN Kévin MOLCARD

開発

Alexandre ADAM	Corentin COMTE	Geoffrey GORMOND	Mathieu NOCENTI
Baptiste AUBRY	Simon CONAN	Pierre-Lin LANEYRIE	Marie PAULI
Timothée BEHETY	Raynald DANTIGNY	Samuel LIMIER	Pierre PFISTER

デザイン

Shaun ELWOOD Baptiste LE GOFF Morgan PERRIER

サウンド・デザイン

Jean-Michel BLANCHET

テストイング

Florian MARIN Germain MARZIN

ベータ・テストイング

Paul BEAUDOIN	Marco CORREIA "Koshdukai"	Jay JANSSEN	Peter TOMLINSON
Gustavo BRAVETTI	Jeffrey CECIL	Terry MARSDEN	Bernd WALDSTÄDT
Andrew CAPON	Ben EGGEHORN	Fernando M RODRIGUES	George WARE
Chuck CAPSIS	Mat HERBERT	Tony Flying SQUIRREL	Chuck ZWICKY

マニュアル

Stephan VANKOV (author)	Vincent LE HEN	Jose RENDON	Jack VAN
Minoru KOIKE	Charlotte METAIS	Holger STEINBRINK	

© ARTURIA SA – 2019 – All rights reserved.
26 avenue Jean Kuntzmann
38330 Montbonnot-Saint-Martin
FRANCE
www.arturia.com

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があります、それについてArturiaは何ら責任を負いません。許諾契約もしくは秘密保持契約に記載の諸条項により、本マニュアルで説明されているソフトウェアを供給します。ソフトウェア使用許諾契約には合法的使用の条件が規定されています。本製品を購入されたお客様の個人的な使用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部をArturia S.A.の明確な書面による許可なく再配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者の商標または登録商標です。

Product version: 1.0.0

Revision date: 23 August 2019

Delay Tape-201をお買い上げいただきありがとうございます！

本マニュアルでは、Arturia Delay Tape-201プラグインの各種機能と使用方法をご紹介します。

できるだけ早めに製品登録をお願いいたします！ Delay Tape-201の購入時にシリアルナンバーとアンロックコードをEメールでご案内しております。製品登録時にはこれらが必要となります。

使用上のご注意

仕様変更について：

本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作の時点では正確なものです。改良等のために仕様を予告なく変更することがあります。

重要：

本ソフトウェアは、アンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本ソフトウェアを長時間使用しないでください。

難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また、年に一度は聴力検査を受けられることをお勧めします。

はじめに

この度はArturia Delay Tape-201をお買い上げいただき、誠にありがとうございます！

テープディレイの名機を再現したArturia Delay Tape-201をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

より良い製品を作るというArturiaの情熱は、Delay Tape-201でも例外ではありません。このプラグインをトラックやセンドバスにかけたり、敏腕サウンドデザイナーたちの手によるプリセットを使用するだけでも、プリセットを軽くエディットするだけでも、Delay Tape-201はわかりやすく使いやすい、それでいて幅広いタイプのディレイエフェクトを作り出すのに十分にパワフルでフレキシブルにお使いいただけるよう開発いたしました。このDelay Tape-201が、あなたの価値あるエフェクトプラグイン・コレクションの1つになり、楽しんでお使いいただけることと確信しております。

Arturiaのハードウェアやソフトウェア製品情報のチェックに、[Arturia](https://www.arturia.jp)ウェブサイトをご活用ください。ミュージシャンにとって不可欠で刺激的なツールが豊富に揃っています。また、日本語での製品情報は[arturia.jp](https://www.arturia.jp)に掲載しております。こちらも併せてご利用ください。

より豊かな音楽ライフを

The Arturia team

もくじ

1. イントロダクション	2
1.1. テーブループの歴史	2
1.2. テープエコーとは?	2
1.3. オリジナルハードウェアの動作の仕組みは?	2
1.4. Tape-201に追加されたオリジナルにはない機能は?	3
2. アクティベーションと最初の設定	4
2.1. Tape-201のライセンスをアクティベートする	3
2.2. Arturia Software Center (ASC)	4
3. オーバービュー	5
3.1. プラグインとして動作	5
3.2. チャンネル設定 (モノ/ステレオ)	5
4. ユーザーインターフェイス	6
4.1. アッパーツールバー	6
4.1.1. プラグインオプション	7
4.1.2. プリセットライブラリ	8
4.1.3. プリセットクイックロード	9
4.1.4. プリセットナビゲーション (Prev/Next)	9
4.1.5. アドバンスト・コントロールパネルのスイッチ	10
4.2. ロワーツールバー	10
5. コントロールパネル	11
5.1. メイン・コントロールパネル	12
5.1.1. インプットとディレイタイプ	12
5.1.2. モードセレクター	13
5.1.3. エコーとリバープのコントロール	14
5.2. アドバンスト・コントロールパネル	15
5.2.1. インプットイコライザー	15
5.2.2. モーターコントロール	16
5.2.3. LFO	17
5.3. 終わりに	18
6. ソフトウェア・ライセンス契約	19

1. イントロダクション

Arturiaのバーチャルディレイ/リバブエフェクトのDelay Tape-201をお買い上げいただき誠にありがとうございます。Delay Tape-201は1970年代から高い評価を受けているテープディレイの名機を再現したものです。元になったハードウェアは、テーブループと一列に並んだ複数の再生ヘッドを使用して濃密でリズムカルなエコーエフェクトを作り出していました。単にエフェクトとして使用する以上に、テープディレイを楽器のように駆使することができ、ダブや実験音楽などのジャンルでは演奏の中心的存在の1つに位置づけられています。

Arturia Delay Tape-201はオリジナルハードウェアを忠実に再現したことで得られる豊かなレガシーのほかに、現代のプロデューサーやミュージシャンにとって嬉しい新機能も追加しました。Delay Tape-201で演奏や音楽制作の楽しい時間がさらに増えることと確信しています。

1.1. テーブループの歴史

音楽にループが使われ始めたのは1940年代のことです。ミュージック・コンクレートの作曲家ピエール・シェフェール (Pierre Schaeffer) が循環する溝で音の断片が繰り返し再生されるフォノグラフのディスクを使い出したのが始まります。磁気オーディオテープの技術が普及するにつれ、この手法は録音済みのオーディオテープを切り貼りしたループに置き換わっていきました。物理的にテープがループしているため、延々と繰り返し再生ができ、再生機 (テープレコーダー) のスピードを変えることで再生ピッチやループの周期をコントロールできました。

テーブループの手法が広く使われたのは1950年代から60年代にかけて、カールハインツ・シュトックハウゼン (Karlheinz Stockhausen) やスティーヴ・ライヒ (Steve Reich)、テリー・ライリー (Terry Riley) などの現代音楽の作曲家が長さの異なる複数のテーブループを同時に再生してパターンやリズムを作っていました。1960年代までにはテーブループはポピュラー音楽の世界にも浸透してきました。その効果はキング・タビー (King Tubby) やシルヴァン・モリス (Sylvan Morris) といったジャマイカのダブ・アーティストが多用し、このジャンルの代名詞的サウンドになりました。テーブループの手法は、“Revolution 9” のようにテーブループを前面に押し出した楽曲を制作した後期ビートルズなど、ポップスのアーティストも使うようになりました。

1.2. テープエコーとは？

アナログやデジタルのディレイが登場する以前、このタイプのエフェクトはオーディオ信号を外部テープレコーダーに送り、その再生ヘッドからの信号をミックスに戻していました。オーディオ信号がテープに録音されてから、再生ヘッドを介してミックスに戻るまでの時間が、原音に対するディレイタイムになります。ディレイタイムはエンジニアがテープレコーダーのスピードを加減することで調節していました。また、再生ヘッドからの信号を再びテープレコーダーに入力させること (フィードバック) で、何回もリピートするエコーを作っていました。このエフェクトは非常に人気が出たため、ハードウェアメーカーがそこに目を付けてこのエフェクトに特化したテープ機器 (テープエコー) を開発し始めました。

1.3. オリジナルハードウェアの動作の仕組みは？

オリジナルハードウェアはテーブループとエコーを1台にまとめたものでした。一般的な6.35mmのオーディオテープをループ状にしたものを本体にセットして使用しました。テープはリールを使わず、テープが本体に収まるスペース内にただあるだけでキャプスタンの駆動力でヘッドのほうへ流れていく機構になっていました。録音ヘッドでオーディオ信号をテープに記録し、後に続く3つの再生ヘッドで録音した信号を再生し、録音ヘッドと再生ヘッドとの距離の差から色々なディレイタイムを作っていました。

フロントパネルには大きなモードセクターノブがあり、これで再生するヘッドを選択し、Rateコントロールでテープメカのスピードが調節できました。ベースとトレブルの2バンドEQでエコー音の音質が調整でき、Intensityノブでエコー音がフィードバックする信号量を調節できました。Intensityノブを過大にすると入力音がなくても自己発振させることができました。この状態でRateノブやモードセクター、EQを駆使して刻々と変化するような異次元サウンド作り、まるで楽器であるかのように操ることもできました。

オリジナルハードウェアにはいくつかのバリエーションモデルがあり、エコーセクションのみのモデルのほか、高級機ではスプリングリバーブを内蔵し、テープエコーと同時にリバーブもかけられるものもありました。

1.4. Tape-201に追加されたオリジナルにはない機能は？

オリジナルハードウェアは現在中古市場でレアな存在で、見つかっても高価で、現在の音楽制作環境に導入するのが難しくなってきました。また運搬するにも大きくて重く、ハードウェアですのでたびたび故障します。同様にハードウェアですから一度にできることは1つだけで作業効率の面でも一定の制限が加わってしまいます。

そこでArturiaがハードとソフトのいいとこ取りのベストを作ろうということになりました：ハードウェアの妥協のないクオリティやキャラクターと、ソフトウェアの使いやすさが一体となれば現在の音楽制作環境にマッチするだろう、ということです。こうして誕生したDelay Tape-201は、オリジナルハードウェアの細かなサウンドキャラクターも逃さず忠実に再現しています。それだけでなく、オリジナルハードウェアにはなかった次のような新しい拡張機能も内蔵しています：

- インプットEQでエフェクトをかける前段階で入力音の音質を調整できます。
- 3種類のディレイタイプ (M/S, L/R, ピンポン) を内蔵しています。
- ステレオ処理が可能です (オリジナルはモノ)。
- セットアップの違う複数のTape-201を同時使用できます。
- DAWのオートメーション機能でコントロールできます。
- エフェクトパラメーターをモジュレーションできるLFOを内蔵しています。
- エフェクト設定を簡単にセーブして呼び出せます。

2. アクティベーションと最初の設定

Arturia Delay Tape-201プラグインは、Windows 7以降、macOS 10.10以降のコンピュータで動作します。Tape-201は、Audio Unit, AAX, VST2, VST3フォーマットのプラグイン (64ビットのみ) として使用できます。



2.1. Tape-201のライセンスをアクティベートする

ソフトウェアをインストールしましたら、次のステップはライセンスをアクティベートします。そうすることで、ソフトウェアを無制限に使用できます。

アクティベーション作業はArturia Software Centerというアプリケーションで行います。

2.2. Arturia Software Center (ASC)

ASCのインストールがまだでしたら、こちらのウェブページから入手できます：[Arturia Updates & Manuals](#) Arturia Software Centerはページのトップにあります。お使いのシステム (macOSまたはWindows) に合ったバージョンのインストーラーをダウンロードしてください。ダウンロードが完了しましたら、インストーラーを起動して表示される指示に従ってインストール作業を進めてください。その後、以下の作業をします：

- Arturia Software Center (ASC) を起動します。
- お持ちのArturiaアカウントでログインします。
- ASCの画面を下にスクロールしてMy Productsを表示させます。
- Activateボタンをクリックします。

これで完了です！

3. オーバービュー

3.1. プラグインとして動作

Delay Tape-201はLive, Logic, Cubase, Pro Toolsなど主要なデジタルオーディオ・ワークステーション (DAW) で採用しているVST2, VST3, AU, AAXの各プラグインフォーマットで動作します。ハードウェアとは異なり、複数のTape-201を同時使用できます。また、Tape-201にはハードウェアにはない大きなメリットが2つあります：

- Tape-201のパラメーターをDAWのオートメーション機能で自動制御できます。
- Tape-201の各パラメーターのセッティングはDAWのプロジェクトとしてセーブされ、次回そのプロジェクトを開いた時にはセーブした時点と全く変わらないセッティングが再現されます。

3.2. チャンネル設定 (モノ/ステレオ)

Tape-201はモノまたはステレオで使用できます。モノトラックにTape-201を立ち上げた場合は自動的にモノの設定になり、ステレオトラックに立ち上げた場合は自動的にステレオモードになります。

モノとステレオとでは使用できるパラメーターに違いがあります。例えば、モノの場合ディレイタイムは1つだけ表示されますが、ステレオの場合は左右のチャンネルごとに独立したディレイタイムが表示されます。

本マニュアルではステレオモードでの機能をご紹介します。モノモードでは使用できない機能等には注釈を付けてあります。

4. ユーザーインターフェイス

Delay Tape-201のユーザーインターフェイスはシンプルでわかりやすいものになっています。インターフェイスは次の4つの大きなセクションに分かれています：



1. **アッパーツールバー**：プラグインの各種設定とプリセットブラウザが入っています。
2. **メインコントロールパネル**：メインのエフェクトパラメーターが入っています。この部分の各パラメーターにつきましては[メインコントロールパネル \[p.12\]](#)のセクションでご紹介します。
3. **アドバンスコントロールパネル**：アドバンスモードのエフェクトパラメーターが入っています。この部分の各パラメーターにつきましては[アドバンスコントロールパネル \[p.15\]](#)セクションでご紹介します。
4. **ローツールバー**：プラグインのバイパススイッチやCPUメーターなどのユーティリティが入っています。

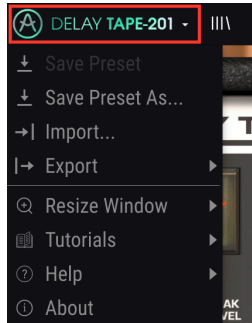
4.1. アッパーツールバー

アッパーツールバーには現行の全Arturiaプラグインで共通の重要な機能が入っています。



4.1.1. プラグインオプション

画面左上のTape-201ロゴをクリックするとプラグインの各種設定とオプションが入ったメニューが開きます。



4.1.1.1. Save Preset

このオプションは、選択したプリセットをエディットした後で同じプリセットに上書きセーブする際に使用します。元のプリセットを残しておきたい場合は、Save Preset As...オプションを使用します。

4.1.1.2. Save Preset As...

このオプションを選択すると、これからセーブするプリセットの情報を入力する画面が表示されます。プリセット名のほか、プリセット作成者の名前やプリセットのタイプも入力できます。それぞれのフィールド等に新規の名称を入力することで、独自のタイプを作成することも可能です。これらのプリセット情報はプリセットブラウザが参照することで、後でプリセットをサーチする時に便利です。

A screenshot of the 'Save As' dialog box. The dialog has a dark background with white text. At the top, it says 'Save As' with a downward arrow icon. Below this, there are two input fields: 'NAME' with the text 'My Sweet Delay Preset' and 'AUTHOR' with the text 'Misho'. To the right of the 'AUTHOR' field is a 'TYPE' dropdown menu showing 'Standard' with a downward arrow icon. At the bottom right, there are two buttons: 'Cancel' and 'Save'.

4.1.1.3. Import...

このコマンドでプリセットファイルをインポート（読み込み）します。インポートできるのはプリセット1つだけのファイル、または1バンク全体のプリセットが入ったファイルのどちらかです。どちらのファイルもセーブ時に .tapx の拡張子が付きます。

このコマンドを選択すると、デフォルト設定のファイルパスを指定した画面が表示されますが、インポートしたいファイルが入っているフォルダを指定し直すことができます。


4.1.1.4. Export Menu

このコマンドでプリセットファイルをエクスポート（書き出し）します。エクスポートにはシングルプリセットとバンクの2種類の方法があります：

- **Export Preset**：シングルプリセット（プリセット1つだけ）のエクスポートです。他のTape-201ユーザーとプリセット単体をシェアする場合などに便利です。最初にデフォルト設定のファイルパスを指定したセーブ画面が表示されますが、エクスポート先を指定し直したり新規フォルダを作成してからエクスポートできます。エクスポートしたファイルはインポートコマンドで読み込むことができます。
- **Export Bank**：このオプションは、1バンク全体のプリセットをエクスポートする際に使用します。プリセットのバックアップやシェアする際に便利です。

4.1.1.5. Resize Window options (リサイズウィンドウ)

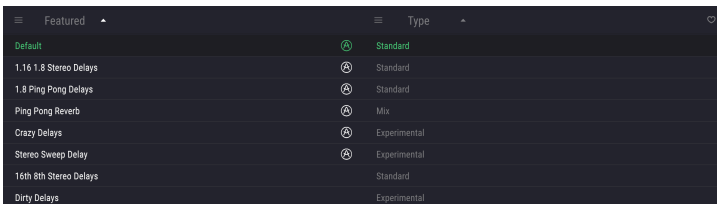
プラグインの画面はオリジナルサイズの60%~200%の範囲でサイズを変更できます。ラップトップなど画面面積が小さい場合は縮小表示にすることでプラグインの画面だけでモニターが埋まってしまうことを防げます。大きなスクリーンやセカンドモニターをご使用の場合は、拡大表示にしてより見やすい状態でコントロールできます。

 画面のリサイズはキーボードショートカットで行えます。Windowsの場合、Ctrlキーを押しながら+/-キーを押すと拡大/縮小します。Macの場合はCmdキーを押しながら+/-キーで拡大/縮小します。

4.1.2. プリセットライブラリ



プリセットの選択方法はいくつかありますが、まずはプリセットライブラリボタン (||||) をご紹介します。このボタンをクリックすると、全ファクトリープリセットとユーザープリセットのリストが表示されます。その時に選択しているプリセットはハイライト表示されます。



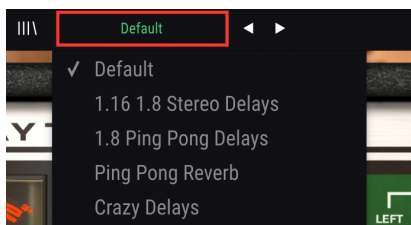
- ロードしたいプリセットをクリックします。
- プリセットを "お気に入り" に登録したい場合は、ハートマークをクリックします。

プリセットライブラリの最上部には、プリセットリストを並べ替えたり、フィルタリング用のオプションがあります。これらを活用して使いやすいようにブラウザ内でのプリセットの表示方法を変更できます。

- プリセットリストの左から最初のコラムをクリックするとリストをName (名前順) またはFeaturedで並べ替えできます。Featuredというのは、色々なタイプのエフェクトを幅広くご紹介するためにArturiaで登録したプリセットです。
- 左から2番目のコラムをクリックすると、リストがType (タイプ順) またはDesigner (作成者名順) にソート (並べ替え) されます。
- ハートのアイコンをクリックすると、"お気に入り" に登録したプリセットがリストの上部に出るようにソートします。

i プリセットライブラリでの表示順はプリセットクイックロード・メニューでの表示順にも関係します。プリセットライブラリで特定のタイプのプリセットにフィルタリングすることができ、その後プリセットクイックロード・メニュー (または左右の矢印ボタン) でそのタイプのプリセットを素早く表示でき、プリセットライブラリを開かずに必要なプリセットをすぐに選択できます。

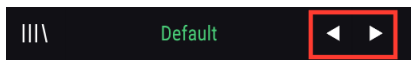
4.1.3. プリセットクイックロード



フル版のプリセットライブラリのほか、プリセットクイックロード・メニューを使ってプリセットを素早く呼び出すことができます。プリセットライブラリで設定したフィルタリングや並べ替えの結果が、クイックロードメニューにも反映されます。例えば、プリセットライブラリで "お気に入り" をリストの上部に表示する設定にしている場合、"お気に入り" に登録されているプリセットがクイックロードのリストの上部に表示されます。

プリセットクイックロード・メニューには、現在選択しているプリセットを削除するオプションもあります。リストの最下部にある **Delete Current** をクリックすると、そのプリセットをライブラリから削除します。

4.1.4. プリセットナビゲーション (Prev/Next)



プリセット選択方法の最後として、プリセットクイックロード・メニューの右にある左右の矢印ボタンでプリセットを1つずつ選択することもできます。プリセットがリスト表示されている状態で、矢印ボタンの左をクリックするとリスト内の1つ前のプリセットに、右の矢印ボタンをクリックすると1つ先のプリセットに切り替えます。なお、プリセットライブラリでフィルタリングや並べ替えを行っている場合、ここで表示されるプリセットのリストにもその結果が反映されます。

4.1.5. アドバンスド・コントロールパネルのスイッチ



アッパーツールバーの右にある二重の矢印ボタンをクリックすると、プラグインのコントロールパネルが拡張したアドバンスド・コントロールパネルに切り替えます。この時に表示される各種コントロールにつきましては、本マニュアルの[アドバンスド・コントロールパネル \[p.15\]](#)セクションをご覧ください。

4.2. ロワーツールバー



Tape-201の画面最下部には次の機能が入ったローワーツールバーがあります：

Panic：このボタンをクリックするとTape-201からのオーディオが停止します。例えば、Intensityの設定が高すぎてフィードバックが止まらなくなってしまい、それを強制的に止めたい場合などに便利です。

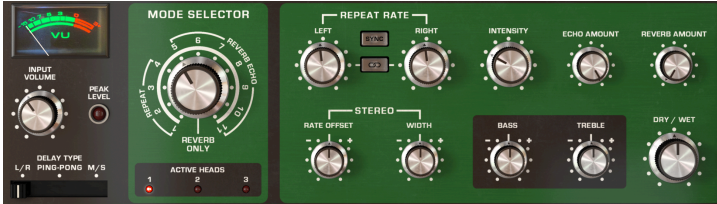
Bypass：このスイッチでTape-201のオン/オフを切り替えます。

CPU Meter：Tape-201が消費するコンピュータのCPUパワーの量を表示します。

5. コントロールパネル

このチャプターでは、Tape-201のコントロールパネルにある各パラメーターをご紹介します。オリジナルハードウェアの使用経験にかかわらず、各パラメーターはわかりやすく使いやすいものになっています。

各パラメーターは6つの大きなセクションに分かれて配置されています。そのうちの3つのセクションはメイン・コントロールパネルとして常に表示されます。



主要なエフェクトパラメーターが入っているメイン・コントロールパネル

残りの3つのセクションは、アッパーツールバーの右にある二重の下向き矢印ボタンをクリックすると開くアドバンスト・コントロールパネルです。



より詳細なパラメーターが入ったアドバンスト・コントロールパネル

i パラメーターの値をマウスで細かくエディットする場合は、Ctrlキーを押しながらドラッグ (Windows) またはCmdキーを押しながらドラッグ (Mac) します。また、右クリックをしてからドラッグすることもできます。

i パラメーターをダブルクリックするとそのパラメーターの値がデフォルト設定にリセットされます。

では、各セクションを詳しく見ていきましょう。

5.1. メイン・コントロールパネル

以下はメイン・コントロールパネルにある各種パラメーターです。

5.1.1. インプットとディレイタイプ



Input Volume : 入力信号のボリュームを調節します。どれだけ "ホット" な信号をテープに録音するかを設定します。

VU : Input Volumeで調節した入力信号のレベルを、このメーターでモニターできます。

Peak Level : 入力信号がクリップし始めると、このLEDが赤く点灯します。

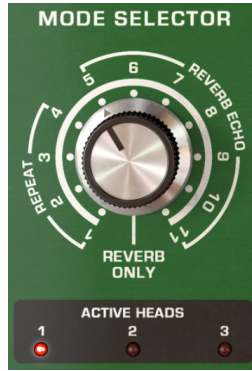
Delay Type : オリジナルハードウェアにはない新しいパラメーターです。3ポジションスイッチでディレイのタイプを切り替えます。

- L/Rモード : 左右のチャンネルに信号が送られ、別々のディレイを設定できます。
- Ping Pongモード : 左右交互にディレイ音が発生するモードです。
- M/Sモード : 入力信号がMid (モノ) とSide (ステレオ) チャンネルに分岐され、チャンネルごとに別々のディレイを設定できます。このモードを選択した場合、Repeat RateのLEFTノブでMid (モノ) チャンネルのディレイタイムを、RIGHTノブでSide (ステレオ) チャンネルのディレイタイムをそれぞれ調節します。



Delay Typeスイッチは、Tape-201がステレオモード動作時にのみ使用可能になります。

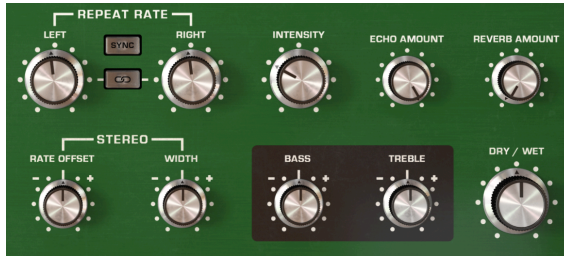
5.1.2. モードセクター



Mode Selector : このノブで3つの再生ヘッドとリバーブの組み合わせを選択します。全部で12段階の設定があり、1~4はテープエコーのみ、5~11はテープエコーとリバーブの両方が使用でき、0はリバーブのみとなります。使用している再生ヘッドは、ノブの下にあるActive Heads LEDが点灯します。

MODE SELECT	PLAYBACK HEADS			REVERB
	1	2	3	
0				●
1	●			
2		●		
3			●	
4		●	●	
5	●			●
6		●		●
7			●	●
8	●	●		●
9		●	●	●
10	●		●	●
11	●	●	●	●

5.1.3. エコーとリバーブのコントロール



Repeat Rate : このノブでテープスピードを調節し、各エコー間の時間的なインターバルが変化します。各チャンネルのスピードは個別に設定できるほか、リンクさせることもできます。

i Tape-201をモノモードで使用している場合、Repeat Rateノブは1つだけが使用可能になります。

Link : このボタンでリンクのオン/オフを切り替えます。オンの場合、LEFTまたはRIGHTどちらかのノブを回すだけで両方の値が変化します。

i LINKボタンはTape-201がステレオモードの場合にのみ使用できます。

Sync : このボタンでDAWのテンポに同期するかどうかを切り替えます。オンの場合、Repeat RateのLEFT/RIGHTノブの値が音符単位になります。

Stereo Offset : 左右間のディレイタイムを微調整して、より広がりのあるディレイを作れます。ノブがセンター位置の状態ではオフセットがかかっていない状態になります。ノブをセンター位置から左へ回していくと、左チャンネルのディレイタイムが少しずつ長くなり、右へ回していくと少しずつ短くなっていきます。なお、ステレオ間の広がりをワイドにするには、WIDTHノブをプラスの位置（センター位置より右）に設定しておく必要があります。

i Stereo OffsetはTape-201がステレオモードの時にのみ使用できます。

Stereo Width : 左右チャンネルのディレイのステレオ間の広がりを調節します。ノブを最低値にすると左右のディレイのチャンネル分離がなくなります。センター位置の場合は入力信号と同じステレオ分離になります。センター位置から右にノブを回していくと、サイド（ステレオ）成分が強調されていきます。なお、このパラメーターは入力信号にサイド（ステレオ）部分が含まれていないと効果が出ません。入力信号がモノの場合はステレオワイド効果が生じません。

i Stereo WidthはTape-201がステレオモードの時にのみ使用できます。


Intensity : エコー音の信号を再びエコー回路に入力する (フィードバックする) 量をこのノブで調節します。高い値に設定すると、エコーの繰り返し量が多くなり、最終的には自己発振を起こし、歪んだフィードバックの質感になります。

 フィードバックが止まらなくなってしまった場合は、ロワーツールバーにあるPanicボタンをクリックすると停止します。

Reverb Amount : このノブでリバーブ成分のボリュームを調節します。

Echo Amount : このノブでエコー成分のボリュームを調節します。

Dry/Wet : Tape-201から出力されるエフェクト成分 (ウェット) と原音 (ドライ) のバランスを、このノブで調節します。ノブを最低値にセットするとドライのみになり、最高値にセットするとウェットのみになります。

 Tape-201をSENDエフェクトとして使用する場合は、このノブを最高値にセットしておくのが一般的です。そうすることでドライ成分の不要な増幅を回避できます。

Treble : エコー音の高音域のトーンを調節します。センター位置で増減なしの状態になります。なお、このノブで調節できるのはエコー音のトーンのみで、リバーブ音のトーンは変化しません。

Bass : エコー音の低音域のトーンを調節します。センター位置で増減なしの状態になります。なお、このノブで調節できるのはエコー音のトーンのみで、リバーブ音のトーンは変化しません。

5.2. アドバンスト・コントロールパネル

ここからは、アドバンスト・コントロールパネルの各パラメーターをご紹介します。アドバンスト・コントロールパネルは、アッパーツールバーの右にある下向き二重矢印ボタンをクリックすると開きます。

5.2.1. インプットイコライザー



インプットイコライザーはオリジナルハードウェアにはなかった新しい機能で、エコー/リバーブ回路に入る前段階で入力音の音質を調整します。インプットイコライザーには3つのフィルター (ハイパス、ローパス、ピーク) があります。

インプットイコライザーはアドバンスモード時にのみ使用できます。アドバンス・コントロールパネルを開くには、アッパーツールバーの右にある下向きの二重矢印ボタンをクリックします。

On/Off：インプットイコライザーのオン/オフを切り替えます。

HP (High Pass) Freq：ハイパスフィルターのカットオフ周波数を調節します。設定した周波数よりも高い成分のみがフィルターを通過します。これにより、入力信号の不要な低音成分をカットし、よりブライトなエコー/リバーブ音にできます。カットオフ周波数は20Hz～1.2kHzの範囲で調節できます。ノブを最低値 (OFF) にセットするとハイパスフィルターがオフになり、ハイパスフィルターによる音質変化がない状態になります。

Peak Freq：ピークフィルターの中心周波数を調節します。ピークフィルターは、特定の周波数付近の帯域のみをブーストまたはカットしたい場合に使用します。

Q：ピークフィルターの帯域幅を調節します。設定を高くすると帯域幅が狭くなり、よりピンポイントなブースト/カットができます。設定を低くすると帯域幅が広くなり、より広範なブースト/カットができます。

Gain：ピークフィルターのブーストまたはカット量を調節します。センター位置で増減なしの状態 (ピークフィルターによる音質変化がない状態) になります。

LP (Low Pass) Freq：ローパスフィルターのカットオフ周波数を調節します。設定した周波数よりも低い成分のみがフィルターを通過します。これにより、入力信号の不要な高音成分をカットし、より柔らかく抑えた感じのエコー/リバーブ音にできます。カットオフ周波数は3kHz～20kHzの範囲で調節できます。ノブを最高値 (OFF) にセットするとローパスフィルターがオフになり、ローパスフィルターによる音質変化がない状態になります。

5.2.2. モーターコントロール



モーターコントロールの各パラメーターは、アドバンスモードで使用できます。アドバンス・コントロールパネルを開くには、画面右上の下向きの二重矢印ボタンをクリックします。

以下の3つのパラメーターでモーターとテープの挙動を調節します。

Flutter：モーターの回転ムラによるテープの再生スピードが揺れる量を、このノブで調節します。ノブを上げていくと、エコー音のピッチにかかるモジュレーションが深くなっていきます。フラッター効果の周期はRepeat Rateパラメーターで変化します。

Motor Inertia：このノブで、モーターのトルク、つまりRepeat Rateノブを回した時に再生スピードが変わるスピードを調節します。ノブを最低値にセットすると、Rateノブの変化とほぼ同時に再生スピードが変化します。最大値にセットすると、Rateノブの変化に対して再生スピードがゆっくりと変化していきません。

Noise：テープ走行メカが発するノイズの量を調節します。ザラツとしたローファイサウンドを作りたい場合に効果的です。

5.2.3. LFO



LFOの各パラメーターは、アドバンスモードで使用できます。アドバンス・コントロールパネルを開くには、画面右上の右下向きの二重矢印ボタンをクリックします。

LFOはロー・フリケンシー・オシレーター (Low Frequency Oscillator) の略です。これもオリジナルハードウェアではなく、Tape-201のみの新機能です。一般的なシンセサイザーのオシレーターとは異なり、LFOは音を出すためのものではなく、別のパラメーターの値にモジュレーションをかけ、エフェクト音に変化や動きを付けるために使います。

LFOは、例えばテンポ同期させてフィルターのカットオフをコントロールしてダブステップのウォブル音を作るといったような極端なことにも使用できますし、より穏やかで微妙なモジュレーションや音の変化を作り出す場合にも使用できます。

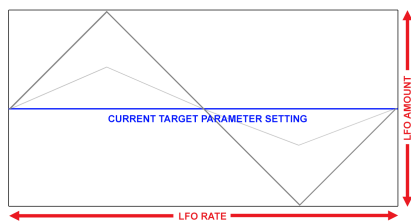
Shape : ターゲット (モジュレーション先) のパラメーターを変化させる波形を切り替えます。波形はサイン波、ノコギリ波、ランプ波、三角波、矩形波、サンプル&ホールドの6種類です。最初の5波形は周期的な波形で、サンプル&ホールドはランダムな変化になります。サンプル&ホールドを選択した場合は、LFOの周期 (Rateノブで設定) ごとにランダムな値を生成します。ターゲットパラメーターに周期的でない変化を付けたい場合、非常に便利です。

Rate : このノブでLFOの周期 (スピード) を調節します。ノブを左へ回していくほど周期がゆっくりとなり、右へ回していくほど周期が速くなります。ノブの右にあるSyncスイッチで、LFOの周期をDAWのテンポに同期させることができます。

Sync : LFO周期をDAWのテンポに同期させるかどうかを切り替えます。テンポに同期したエフェクトのモジュレーションを作りたい場合に便利です。オンの場合、Rateノブの値は音符単位になります。オフの場合はミリ秒単位です。

Amount : ターゲットパラメーターにかけるモジュレーションの深さを調節します。ノブを左へ回すほどモジュレーションが浅くなり、変化が小さくなり、右へ回していくほどより深いモジュレーションになっていきます。

Destination : LFOでモジュレーションをかけるパラメーターを、このメニューで選択します。エフェクトパラメーターのほとんどを選択できます。



ターゲットパラメーターにモジュレーションをかける三角波の例。LFO Amountでモジュレーションの揺れ幅の大きさを調節し、Rateでモジュレーションの周期を調節します。



LFOによるモジュレーションはプラスとマイナスがあるバイポーラですので、ターゲットパラメーターはその設定値を中心に上下に変化します。

5.3. 終わりに

これでユーザーマニュアルは終わりです。私たちがこのプラグインを楽しんで開発したのと同じように楽しんでお使いいただき、素晴らしい楽曲やサウンドを作り出していただければ幸いです。

6. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンス料（お客様が支払ったアートリア製品代金の一部）により、アートリア社はライセンサーとしてお客様（被ライセンサー）にソフトウェアのコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社（以下アートリア）に帰属します。アートリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEMソフトウェアの使用はレジストレーション完了後のみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリア社への書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アートリア社は、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリア社は、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス・コントロールとしてOEMソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下のサポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリア社は、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど）に同意するよう求められます。アートリア社は、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になっています。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。お客様は、ソフトウェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざんすることはできません。

6. 著作権 ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのソフトウェアの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

8. 限定保証 アートリア社は通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリア社は、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリア社が提供する補償はアートリア社の選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリア社にソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間か30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリア社または販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行ったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリア社は、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害(業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む) について、アートリア社が当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。